

# 平成30年度第1回

## まちづくりふれあいミーティング 質疑応答

**市民：**南部包括支援センターで勤務しているのだが、地区の防災計画の話の中で、市の防災担当で個人情報把握していると思うが、それとは別に地区が把握している個人情報と市の民生委員が把握している個人情報がバラバラに管理されているので、個人情報を共有しておく必要があると思う。

**市：**市民経済環境部では、防災関連において、災害時の対応等に備えるため、個人情報の名簿を作成しているが、平時の場合は部外秘であり、災害時は健康福祉部の持っている情報も使用させていただくことになると思う。

健康福祉部では、民生委員が本人から了承を得た個人情報を持っている。平時に地区の方が把握している個人情報と共有ができていない実態がある。

防災対策でいえば、避難所に向かうにしても、どこに、どのように、どの方法で向かうのかは個々に違う。各所管で把握している個人情報を庁内の関連各課で共有することが出来ないか検討を進めている。将来的には、民生委員に限らず、行政に関連する外部関係者とも共有できればと考えている。

**市民：**広報とみさとは手元になれば購読しないという方が多くいる。公共施設には配備しているが、足を運べる人も数少ない。新聞折り込みは、新聞購読者も減少傾向である。各戸ポスティングによる配布はお願いできないか。

**市：**現在実施している新聞折り込みによる配布手法により、ほぼ全域にいき渡っていると理解している。また、広報の個別配布を希望される方には郵送している。市内では1世帯2人以上の家族が平均で、核家族化が進んでいる。また、購読ツールも世代により変わっていくと考えている。広報紙の他に市のホームページやアプリで案内をしているが、ポスティングは経費の問題もあることから、別の方法で周知したいと考えている。

**市民：**高齢化社会をどのように幸せに暮らして行くかを考えると、「健康」に配慮した環境づくりが必要と考える。

**市：**健康づくりの取り組みは、北部、中部、南部の各地域において、健康教室の場を設けている。また、健康ちょきん体操も開催して、筋力維持に重点をおいて活動している。半年ごとの年2回実施しており、順天堂大学の協力で専門性が高く、人気も高い事業だが、取得した内容を日常生活で継続的に活かせるかが一つの課題となっている。

高齢者の見守り事業は、行方不明者の案内やコンビニなどの店舗、事業者の協力を得て通報を受ける連絡体制の充実に取り組んでいる。

**市民：**久能のバス通りは、自然も多く存在することから、ウォーキングやマラソンができるように道路を整備していただきたい。

**市：**現在整備を進めているのは日吉台から富里インターに向かう道路で、今のところ久能のバス通りを整備する予定はない。20年後の都市構想を描いた都市マスタープランがあるが、そこにも久能バス通りの構想は反映していないので、次期マスタープラン策定時である40年後の検討事項の一つになるのではないかと考える。いずれにしても、自然と調和した道路構想は、経費もかかることから、既存施設を活かした道路整備を検討できればと考えている。

**市民：**青少年が参加できるような事業、イベントのアイデアを工夫いただきたい。

**市：**農業も商業も事業を引き継ぐ若者がいないのが課題となっている。農業では、近年ここ5年間で、毎年新規就農者が3名から7名程度増えている。商業では、商工会の青年部は活発に活動しており、会員数は全国一位で100名以上の登録がある。青年部では街おこしで街を元気にし、活性化に向け活動いただいている。市としても非常に心強く、今後も、なお一層各分野で積極的な青少年の参加に取り組んでもらいたいと考えている。

また、市では協働のまちづくりを推進しているが、サポートセンターでは、まちづくりコーディネーターを配置し、新しい取り組みをする活動団体を支援しており、活動団体も増えている。

**市民：**どこの地域でも子供や大人、障がい者などさまざまな分野で課題があるが、市に相談するとそれぞれの分野別で回答となるため、相談し辛いので、窓口の一元化を検討いただけないか。

**市：**内部で、他の課との連携には努めているが、多分野で法律等も異なることから、窓口一元化という要望通りの体制は難しいのが現状である。

**市民：**ある独居老人の家庭で、水が出ない、電気が止まっている状況となっており、確認してみると井戸水を使用している家庭であった。飲まず食わずの状態、たまたま近所の住民から通報があり、最悪の事態を免れたケースがある。また、台風や停電などの災害などがあれば、必ず安否確認することを徹底しているが、今回のケースでは井戸水を使用している家庭ということを見逃していた。この家庭は井戸水であるという情報だけでもいただけると助かる。現在は、訪問した際に、井戸水を使用しているかの確認をしている。

**市：**最悪の事態が起きる前に発見することが重要で、新聞店や郵便局などから不審に思うご家庭は情報を伝達する体制になっている。近隣住民など、情報を共有できる伝達体制を整えていきたいが苦慮している。市の上水道に加入していれば情報は把握できるが、どの家庭が井戸水かどうかを把握するのは困難である。しかし、水道管が通っていない地域（エリア）は把握できるので情報共有したい。

**市民：**富里市は自然が充実しており、財産である。住民のみんなが自然を大事にする市民であってほしい。自然と向き合う環境づくり・構想をお願いしたい。

**市：**市の南部地域は農業生産の基地であり市街化調整区域となっている。また、北部の根木名川流域は米の生産地で、そこで暮らしている人は農業を営んでいる。自然環境は谷津田近辺を保存する計画があり、都市化すべき地域と農業と景観を守る地域を線引きすることで、自然環境の保全・維持に努めているところである。

**市民：**廃校となった洗心小学校の校舎はきれいで、何かの拠点にできないかと思っている人は多くいる。商工会では宿舎にして農業訓練学校などの意見もあると聞いているが、今後どうなるのか。

**市：**洗心小学校の跡地を有効活用できればと思っている。現状としては体育館とグラウンドは避難所として指定している。また、フィルムコミッションの施設としても誘致しており、北部は徳洲会病院、中部はラディソンホテルのケータリング工場跡地を活用いただいているように、南部は、この洗心小学校を活用した市のPRができればと考えている。

実際に現状の建物形態の変更や新たに建設すること、また、現状のまま使用する場合でも問題点があり、さまざまな規制がかかってくるので、内部で精査している段階である。精査した条件を市民の皆様に提供し、活用方策を検討していければと考えている。

**市民：**北部にはコミュニティーセンター、中部にはふれあいセンターがあるように、南部にも洗心小学校を同様の施設として活用できないか。

**市：**過去に南部コミュニティーセンターとしての活用が話題となったことがあるが、行政の立場からすると、維持管理等の効率性から、同機能の施設は難しいのではないかと考える。しかしながら、大々的でなくとも、周辺地域の拠点となってくれればと考えている。